

# プロスポーツ KEIRIN グランプリ

## 号外版

PROSPORTS KEIRIN WEEKLY MAGAZINE

### 展開の鍵を握る近畿4車の動向

今年のG1優勝は、高松宮記念杯(3着)の1回だけに終わった郡司浩平。ビッググレードで優勝し、前半戦で早々と2冠に輝くと、寺崎浩平は近畿連続を達成している。今年の勝ち星は41勝、勝率46%も評価できる数字で、全体的に見れば悪くなかった。グランプリは過去に5回参戦し3着(2回)が最高の成績。豪快な一撃を決めて初Vをゲットし、地元ファンを歓喜させるか。

眞杉匠、吉田拓矢の関東黄金コンビもビッググレードで優勝経験がある選手の存在は、大きなアドバンテージと言えるだろう。この近畿の4名が並ぶようなら、強大な近畿ラインができあがるが、福井勢と大阪勢に分かれ別線勝負も考えられる。近畿勢の動向がレース展開の大きな鍵となりそうだ。また、左肘関節脱臼骨折の重傷を負った脇本の調整がどの程度まで進むのかも優勝のゆくえを左右しそうだ。

眞杉匠、吉田拓矢の関東黄金コンビもビッググレードで優勝経験がある選手の存在は、大きなアドバンテージと言えるだろう。この近畿の4名が並ぶようなら、強大な近畿ラインができあがるが、福井勢と大阪勢に分かれ別線勝負も考えられる。近畿勢の動向がレース展開の大きな鍵となりそうだ。また、左肘関節脱臼骨折の重傷を負った脇本の調整がどの程度まで進むのかも優勝のゆくえを左右しそうだ。

今年のG1優勝は、高松宮記念杯(3着)の1回だけに終わった郡司浩平。ビッググレードで優勝し、前半戦で早々と2冠に輝くと、寺崎浩平は近畿連続を達成している。今年の勝ち星は41勝、勝率46%も評価できる数字で、全体的に見れば悪くなかった。グランプリは過去に5回参戦し3着(2回)が最高の成績。豪快な一撃を決めて初Vをゲットし、地元ファンを歓喜させるか。

眞仁親王牌では単騎ながらG1初Vを飾った嘉永泰斗。レースを支配した吉田拓矢、恩田淳平の関東勢に続き3番手を確保すると、最終2コーナーから自力を出して大輪の花を咲かせた。関東勢を追いかけた嗅覚は見事だったし切れ味鋭いスピードを効かした主武器のまくりが、大舞台で主役を演じる原動力となつた。混戦は一発怖い。

オールスター、眞仁親王牌と続けて新たなタイトルホルダーが誕生したが、競輪祭でも阿部拓真が初のG1ウイナーに輝いた。同期生の吉田に前を任せたのが功を奏いた。競輪祭の決勝と同様に、無欲で臨み波乱を呼ぶか。

今年のG1優勝は、高松宮記念杯(3着)の1回だけに終わった郡司浩平。ビッググレードで優勝し、前半戦で早々と2冠に輝くと、寺崎浩平は近畿連続を達成している。今年の勝ち星は41勝、勝率46%も評価できる数字で、全体的に見れば悪くなかった。グランプリは過去に5回参戦し3着(2回)が最高の成績。豪快な一撃を決めて初Vをゲットし、地元ファンを歓喜させるか。

眞杉匠、吉田拓矢の関東黄金コンビもビッググレードで優勝経験がある選手の存在は、大きなアドバンテージと言えるだろう。この近畿の4名が並ぶようなら、強大な近畿ラインができあがるが、福井勢と大阪勢に分かれ別線勝負も考えられる。近畿勢の動向がレース展開の大きな鍵となりそうだ。また、左肘関節脱臼骨折の重傷を負った脇本の調整がどの程度まで進むのかも優勝のゆくえを左右しそうだ。

眞杉匠、吉田拓矢の関東黄金コンビもビッググレードで優勝経験がある選手の存在は、大きなアドバンテージと言えるだろう。この近畿の4名が並ぶようなら、強大な近畿ラインができあがるが、福井勢と大阪勢に分かれ別線勝負も考えられる。近畿勢の動向がレース展開の大きな鍵となりそうだ。また、左肘関節脱臼骨折の重傷を負った脇本の調整がどの程度まで進むのかも優勝のゆくえを左右しそうだ。

今年のG1優勝は、高松宮記念杯(3着)の1回だけに終わった郡司浩平。ビッググレードで優勝し、前半戦で早々と2冠に輝くと、寺崎浩平は近畿連続を達成している。今年の勝ち星は41勝、勝率46%も評価できる数字で、全体的に見れば悪くなかった。グランプリは過去に5回参戦し3着(2回)が最高の成績。豪快な一撃を決めて初Vをゲットし、地元ファンを歓喜させるか。

眞仁親王牌では単騎ながらG1初Vを飾った嘉永泰斗。レースを支配した吉田拓矢、恩田淳平の関東勢に続き3番手を確保すると、最終2コーナーから自力を出して大輪の花を咲かせた。関東勢を追いかけた嗅覚は見事だったし切れ味鋭いスピードを効かした主武器のまくりが、大舞台で主役を演じる原動力となつた。混戦は一発怖い。

オールスター、眞仁親王牌と続けて新たなタイトルホルダーが誕生したが、競輪祭でも阿部拓真が初のG1ウイナーに輝いた。同期生の吉田に前を任せたのが功を奏いた。競輪祭の決勝と同様に、無欲で臨み波乱を呼ぶか。

### 30日 11R GP 展望



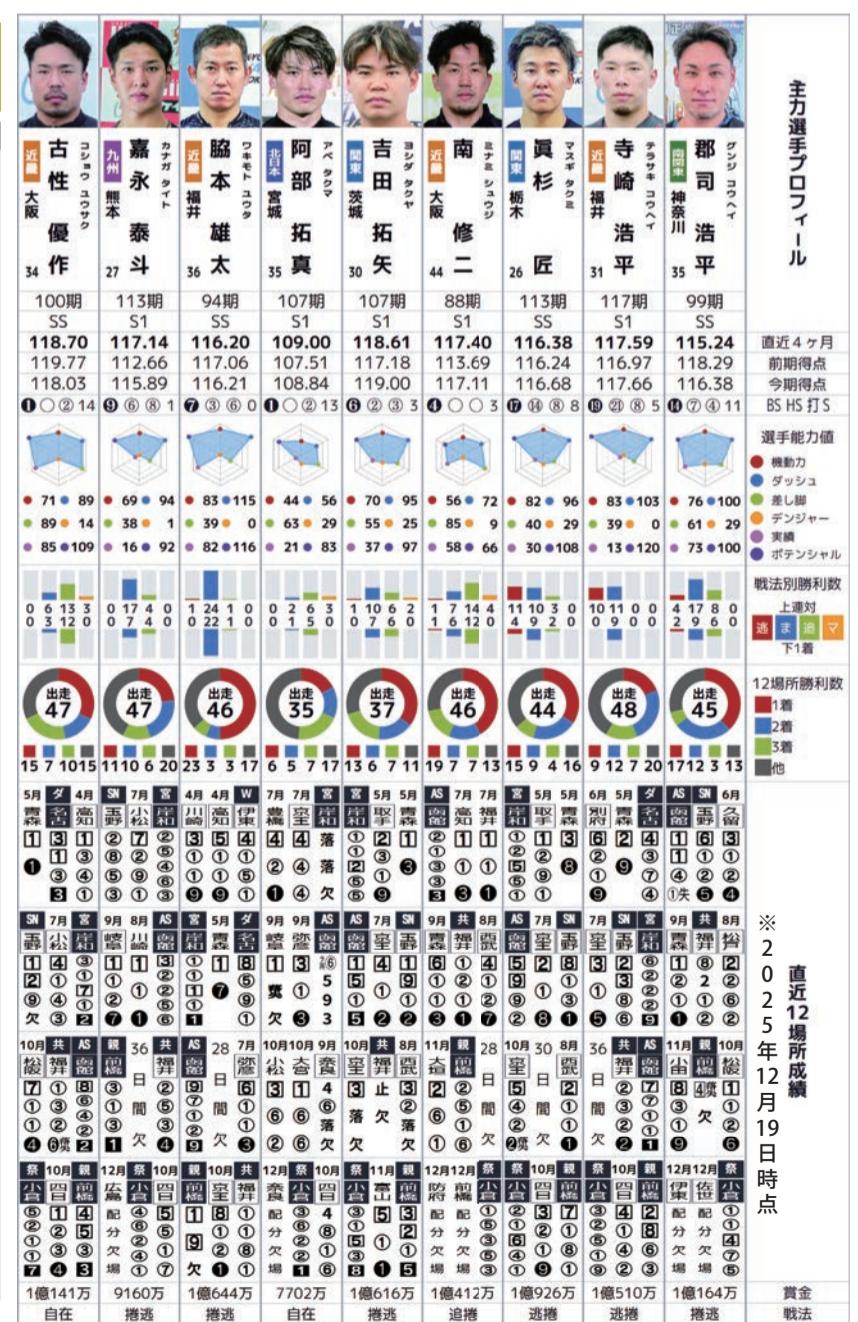
### グランプリシリーズ出場予定選手一覧

競輪グランプリ			
級班	氏名	登録地	期別
SS	南修二	大阪	88期
	脇本雄太	福井	94期
	郡司浩平	神奈川	99期
	古性優作	大阪	100期
	阿部拓真	宮城	107期
	吉田拓矢	茨城	107期
	眞杉匠	栃木	113期
	嘉永泰斗	熊本	113期
	寺崎浩平	福井	117期

寺内大吉記念杯競輪			
級班	氏名	登録地	期別
古性優作	内藤宣彦	秋田	67期
	新田康仁	静岡	74期
	吉田敏洋	愛知	85期
	東口善朋	和歌山	85期
	山崎芳仁	福島	88期
	小川勇介	福岡	90期
	池田良	広島	91期
	根田空史	千葉	94期
	近藤保	千葉	95期
	守澤太志	秋田	96期
	磯田旭	栃木	96期
	松谷秀幸	神奈川	96期
	西村光太	三重	96期
	中本匠史	熊本	97期
	新山将史	青森	98期
	神田祐輔	大阪	100期
	吉澤純平	茨城	101期
	林慶次郎	福岡	111期
	森田優弥	埼玉	113期
	松井宏佑	神奈川	113期
	中石湊	北海道	125期
	森田一郎	埼玉	125期
	栗山和樹	岐阜	125期
	阿部英斗	福岡	125期

ヤンググランプリ			
級班	氏名	登録地	期別
S2	松崎広太	茨城	123期
	篠田幸希	群馬	123期
	黒瀬浩太郎	広島	123期
	西田優大	広島	123期
	梶原海斗	福岡	123期
	中石湊	北海道	125期
	森田一郎	埼玉	125期
	栗山和樹	岐阜	125期
	阿部英斗	福岡	125期

ガールズグランプリ			
級班	氏名	登録地	期別
L1	山原さくら	山口	104期
	尾崎睦	神奈川	108期
	児玉碧衣	福岡	108期
	梅川風子	東京	112期
	坂口楓華	愛知	112期
	佐藤水菜	神奈川	114期
	久米詩	静岡	116期



※2025年12月19日時点

※出走表は発走までに変更となる可能性がございますのでご了承ください。

主力選手プロフィール

選手能力値  
●機動力  
●ダッシュ  
●差し脚  
●デンジャー  
●実績  
●ボンサル

戦法別勝利数  
上対上  
上対下  
下対下

12場所勝利数  
1着  
2着  
3着  
他

賞金  
戦法

※ 2025年12月19日時点

# 28日 11R YOUNGGRANDPRIX2025

# スピード優る申石湊

## 次代の競輪界を担う若手による頂上

(北海道125期)

中石湊

実績面で優るのは西田優大。7月小松島記念は単騎戦ながらも、豪快まくりで記念初制覇を飾った。普段は非凡な先行力を存分に發揮しており、同県の黒瀬浩太郎と連係するのか、自分で戦うのは流動的だが、V候補の一角。

3車そろった関東勢は、125期ナンバーワンの森田一郎が中心。12月松戸でS級初優勝を飾り、状態面は上向き。篠田幸希、松崎広太も底力がある、軽視はできないだろう。

阿部英斗、梶原海斗の福岡コンビも侮れない。阿部はグレードレースでは苦戦続きも、大舞台での躍動は十分。梶原も底を脱した感があり、展開次第では浮上があつてもいい。

栗山和樹は、5月奈良でS級初V後リズムを崩している。しかし総合力は高く、チャンスはありそうだ。

次代の競輪界を担う若手による頂上決戦は、例年にも増して混戦ムードが漂うが、中石湊を本命視する。3月にS級に特進し、昇級後はF1で2度の優勝実績を誇る。また、初のビッグ出場となつたオールスターでは2度の連対と健闘を見せた。ナショナルチーム仕込みのスピード、持久力とも素晴らしい、同世代の頂点を目指す。



広島・123期

※出走表は発走までに変更となる可能性がございますのでご了承ください。

29日 11R

# GIRLSGRANDPRIX2025

# 大記録に挑む佐藤水菜

佐藤にとって最大のライバルは梅川風子だ。今年の普通開催は全て勝ち、G1戦でも勝ち星を重ねて女子王座戦の決勝では佐藤に4分の1輪差まで肉薄した。スピードで唯一佐藤に対抗できそうな存在だけに逆転の期待も。児玉碧衣も自分に合った練習に出会い進化を実感する一年だった。ただG1戦では悔しい結果が続いたので、ここで晴らしたい。佐藤と並び地元スターの尾崎睦もこの舞台を目標に一年を戦い抜き、10月には節目の500勝も達成。さらにオールラウンダーの久米詩、脚力も精神面も強化された坂口楓華、最後の出場枠を守り切った山原さくら。佐藤の一強ムードながら、大一番に相応しい選手がそろった。

昨年は石井寛子が優勝したように波乱も多い頂上決戦だが、年間グランプリスマムというとてつもない偉業に臨む佐藤水菜の力が抜けている。世界選のケイリンで2年連続の金メダル、スプリントでも銀メダルを獲得している押しも押されもせぬ世界女王。今までのトップレーサーとは次元が違うだけに、長い距離を踏んでの勝負でもショートレンジのタテ攻撃になつても大目



東京112期  
梅川風子

※出走表は発走までに変更となる可能性がございますのでご了承ください。

A side-by-side photograph of two male cyclists. The cyclist on the left is wearing a black cycling jersey with 'JAPAN' and 'KEIRIN CHAMPIONSHIP' printed on it, along with the number '70'. He has his arms crossed and is looking directly at the camera. The cyclist on the right is wearing a black cycling jersey with a small logo on the chest and has his arms crossed. Both are standing in front of large posters of anime characters.

れ味、勝負強さが戻った。森田優弥、吉田有希の強力機動型に、吉澤純平という関東勢も優勝者を出せる勢力だし、中野慎詞、守澤太志、阿部力也の北勢も同様。その他にも石原颯、後藤大輝、市田龍生が多數参戦する。

山口 拳矢  
(岐阜 / 117期)

松井 宏佑  
(袖奈川/113期)

## 寺内大吉記念杯競輪

28日(日)29日(月)30日(火)

## 主役は譲らぬ松井宏佑

車券の購入は20歳になってから。競輪は適度に楽しみましょう。

競輪とオートレースの売上の一部は、機械工業の振興や社会福祉等に役立てられています。